

11/18

# 訪米阻止斗争の全人民的昂揚を踏まえ 中央斗争報告集会結集

金井大の学生友説君。

~~佐野は全人民の反対を絶し、本日から米を貢おうとした。昨日訪米した。我らはこれを任取の全人民に対する庶民主義的販賣の宣戦布告と考る。我々の委託を許してしまつたけれども、決して考へは敗北しそのまゝに終つて。何故なら訪米阻止斗争の意義は決して物理的決戦ではなく、如何にして阻止。佐野の知識及び力量を研ぎしうる政治的力闘争を国内の各層級を形成し、暴動的と言えは、政府蔑視、政治蔑視は起りたぬが、一方、労働者階級がそれを中心とする全人民の庄重的決意を構成する一ことにありのだ。それは産業をはじめ、なによりも、これが全国の産業において立ち止まつたことは、ほつさりと変更してしむることを我々は評価しなければならぬ。佐野によつて宣傳された現在、我々は必ずメキシコは、日本は労働者階級のみちあらず、反対斗争、眞正斗争を通じてより高度に、政治的自覚の発化をうながす。併計内閣打汰、反獨占斗争の勝利的展開をキーワードとする。我々は労働斗争の競争は、ソーラン斗争にして、効率化である。形成されていることを確認しよう。わがる貴志君の下、16-17日東の中央にあつての翌日又確認するが、中央斗争を一段階若く見て理解してしる要つてはべてせん。中央斗争の意義は、B日、韓国にて腰をとつる各地での斗争である。併計内閣打汰、反獨占斗争の勝利的展開をキーワードとする。我々は労働斗争の競争は、ソーラン斗争の上に中央斗争を一段階若く見て理解してしる要つてはべてせん。中央斗争の意義は、B日、韓國にて腰をとつる各地での斗争であることになり、佐野に痛打を食ひしたことであり、一方、この間、原創的斗争を展開して来た大阪にあける課題は、基本政策の一覧の下、行政保府民共一千、関西学生共三十五の中央派遣は、子孫に大阪にかけたりの成果をもつて、果敢に中央斗争を開闢したのである。~~

2. 本日の中央斗争報告、佐藤内閣  
議集会に結集し、安保研葉・基地  
撤去沖縄即時全面返還、佐藤内閣  
抗敵の意志継続をうち固めよ。

先述した如く、講義したものと決して云はれぬ。我々は日本独立の意義を講義するが、生産質から男行性をもつた。我たる日本独立の意義は、敗北こじか、全く就服を許さず、罵罵をつく。青田占拠、民労争をして斗争としてして位置づけられず、い通り、矢張り斗争を「屬闘」として扱ふ。我々は「敗北」として、全く就服を許さず、今般の斗争の勝利的展望を切り抜くのである。我たる学生共は唯一学生部隊にあり、原創的かつ戦闘的でない。全市の大學生君、本日の集会に結集し、安保研葉・基地の撤去沖縄即時全面返還、佐野打汰を向けて、学生大會の下、ヨリ始二〇。

## 行実大南 佐前訪米阻止学生共斗